

# Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校

学校だより 令和4年度 7月号①

HP:<http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

## 校長先生 全校集会 講話 令和4年7月22日

観測史上最短で梅雨が明け、猛暑、酷暑が続くコロナ禍3巡目の夏が始まっています。コロナ禍以降、いつ何が起きるか分からない、いつ何が起きてもいいように生きる覚悟が必要、だからこそ発想の転換、柔軟な思考力が必要であると痛感しています。その中で皆さんはICT活用授業といった新しい学び方にも慣れ、制限・制約の体育祭や各種行事の実施によく頑張りました。しかし当面この繰り返しが続くと予想したとおり、第7波が到来。一喜一憂せず悔いのないよう、置かれた状況の中であらゆることに全力を注いでいきましょう。

今日は、3年生以上に配付された『進路の手引き』巻頭言で触れた「自己指導能力を高める」～強い意志で努力し続けること、柔軟な判断で修正し進路選択していくこと～について、校長の私からのお願いについて大事な話をします。

今年度から成年年齢が18歳に引き下げられ、卒業後、様々な観点で「大人」として扱われることになりました。自立した「大人」への準備はどうか？大学等進学以前に、将来「大人」として「働くこと」が社会人としての1つの目標であり、そのための自覚を高め不可欠な資質を身に付ける必要があると考えます。その根幹が日ごろの学習により定着される「学力」です。

とかく大人が「学生の頃にもっと勉強しておけば良かった」と言うのは、どの大人も少なからず悔いがあり、子どもへの期待もあると考えます。世の人は強い思いで勉強に取り組んでいる人を「ガリ勉」と言って批判することがあります。全てをなげうってスポーツに取り組んでいる人を賞賛するくせに、です。勉強することは恥ずかしいことではなく、むしろかっこよく素晴らしいこと。将来のことを真剣に考えている証であり、夢の選択肢が広がっていくのです。

新潟県の今春の大学等進学率が約51.9%で初の50%を超えました。約30年前は、30%台で全国最下位クラスであったと記憶しています。県内外にも大学が増設されたこと、少子化が進む一方で、社会や経済情勢も大きく変化して親や子による大学進学への思いが高まってきたことも一因であろうと考えます。本校卒業生も国公立大学進学率が開校以来2番目の成果を上げました。卒業生の6年間の努力、先生方の指導、支援の賜であると感謝しています。



さて、相手の話を聴いて直ぐにどうすべきかを答えることができるカウンセラーが優れたカウンセラーではないように、子どもが自分で考え、自分でやるべきことを肩代わりする親が良い親ではありません。自社の製品を顧客の意に反して押し売りできる販売員が優れた販売員ではないように、指導内容を一方的に生徒に教え込む教師が良い教師ではありません。何かを求める相手への対応の場において、優れた対応に概ね共通してみられるのは、「相手が自分で考え、判断し、自ら行動するように配慮している」という点です。

以前の勤務校で3年生の担任をしていた時のことです。ほぼ全員が国公立大学進学希望というクラス担任は初めてということもあり、進学情報誌やデータブックには目を通すよう心がけ、進学情報の収集に努めていました。三者面談を控えたある日、各生徒の成績、進路希望等とデータブック等を見比べながら受験を勧める大学・学部を考えていた時に「これは一体誰が解決すべき課題なのか」とふと思いました。その後私は、「担任が進学情報に熟知するだけではなく、生徒自身が必要な時に必要な情報を得る方法を熟知していることこそ重要である」と考え、「生徒自らが調べる方法」の指導を強化してきました。そしてよく考えもせず進路相談に来る依存傾向の強い生徒に対しては、受験という「人生課題」を自分で解決していけるよう支援に心がけました。

「人は、自分の目標達成や課題解決を人任せにしている自分に気づき、自らの責任でやるしかない」と覚悟を決めた時に、達成・解決への最も大きな一歩を踏み出す」と言えるのではないのでしょうか。皆さんには、早くこのことに気づき、「その時、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力」、すなわち「自己指導能力」を身に付けた「自立した学習者・生活者」に成長してほしいと強く願っています。この「自己指導能力」は、目標を明確化し、その目標に到達する方法を自ら考え、見つけ出し、達成状況を自己評価しながら目標へと自らを導いていくことで向上していきます。

言い換えれば、皆さんは主体的に物事を考え、最適解を見出すために思考力、判断力等を駆使しながら試行錯誤し振り返り、学びを深めていきます。日ごろの学習をはじめ、「探究学習」が正にそうなのです。また、先生方には生徒に教え過ぎず、主体的に学ぶ意欲や興味・関心を高め、知的好奇心をくすぐる魅力ある授業をとおして「アカデミックな視点でもっと学びたい」「掘り下げて学ぶにはどの大学が相応しいのか」「どれくらいの学力が必要か」という生徒の思いを支援

してほしいと願っています。

目標設定後、「第一志望」の実現に全力を尽くす。その結果、思うようになければ、どの道が最適か模索する。私の半生を振り返ると、努力したものの「第一志望」の高校も大学も、そして11歳から思い続けてきた小学校教師の夢も叶いませんでした。しかしこの挫折やコンプレックスがあったからこそ、今があると思っています。その悔しさをバネにハングリー精神で軌道修正して英語の教師になれたことは最高の喜び、生きがいとなり、英語の面白さを知り海外旅行や外国人との触れ合いを通じた出逢い、御縁、運命に感謝しています。遠回りの人生も悪くはなかったと思うようにしています。先生方の指導、『進路の手引き』の卒業生受験報告等を参考にして、皆さんが「自己指導能力」を高め、受験という「人生課題」を自分で解決していけるよう、探究してください。

さて最後に、私からのお願いです。まずは、目を閉じてください。質問をします。「今、将来の夢、なりたい職業は決まっていますか？」決まっている人は挙手してください。決まっていない人は挙手してください。

実はこれ、1年生の多くは覚えているように、昨年度学校説明会で小学校訪問した際、皆さんに尋ねた質問です。そして、「現時点ではどちらに手を挙げてても正解です。決まっている人は実現に向け努力をしよう、決まっていない人はそれを見つける6年間にしよう」とお話ししました。実際、入学して各学年での挙手の様子は今、私と先生方が把握しました。手が挙がらなかった人は、夢を考える、見つける夏休みにしましょう。佐渡中等に入学後、夢の実現に向けて近づいていますか。私は、皆さんに夢を叶えるために今まで以上に努力をし、勉強をしてほしい、と考えています。



そのためには、平等に与えられた1日24時間をどのように使っていくか、どう効率よく使っていくかがカギであると考えます。毎日の授業、家庭学習の大切さはもちろんですが、そのカギの一つが放課後の過ごし方です。そこで、従来の部活動日を平日4日から3日にすることでその時間を生み出し、学習に充てて有効活用してほしいと考えました。2学期開始の10月からとし、曜日は顧問の先生にお任せし、大会直前については従来通り申請があれば時間延長を校長の私が認めます。つまり、オンとオフのメリハリある生活、効率的な部活動指導を先生方にもお願いしたところです。

開校当初、以前は週3日程度の活動であったと聞いています。また、そのような活動日の中等教育学校もあります。新学習指導要領では、放課後の過ごし方について原則7限を実施しないことで、確保した時間を個別指導等に有効活用する流れとなりました。また、皆さんもニュース等で耳にしていますが、「働き方改革」とか、国の動きとして先生方の負担軽減を踏まえ、来年度から中学校の土日の部活動が地域移行されるなど、私は校長として、先生方にも心にゆとりを持ち、プライベートの時間も大切にしてもらいたいと考えています。

「今まで通り、部活動をやりたい」、一方で「少し心の余裕を持って過ごしたい」と感じるのは生徒の皆さんにも、先生方にも双方あると思います。生徒の皆さんには、佐渡中等生としてもっと勉強して夢を実現してほしい。先生方には、部活動指導を軽減することで放課後に本来の主業務である教材研究、他の業務、家族、自分のことといったプライベートにも時間を充ててほしい。生徒も先生方にも、体調を崩すことなく健康的な学校生活を過ごしてもらいたい。そして、本来の教職の本分は部活動指導ではなく授業であり、生徒との日常的な交流であると確信するからです。どうか生徒の皆さんにも理解してほしいと思います。

最後に、喫緊の課題が「教員離れ、教員不足」です。これらが解消され、「教員って素晴らしい仕事なんだ」「故郷を支える人材育成のために先生をめざしたい」といった生徒が一人でも多く育ってくれることを切に願っています。それが、今、校長の私の夢でもあります。先行き不透明な日本ですが、「教育は未来への架け橋、教員という仕事は人づくり、今こそ教員はエッセンシャルワーカーである」と考えます。「よし、教員をめざしてみよう」と、皆さんの中から1人でも2人でも出てきてくれることを期待しています。

生徒の皆さんがそう思えるためにも、まずは身近な先生方が日ごろから明るく元気で輝いてほしいと心から思います。皆さんにも理解してほしいです。

今日は、①「自己指導能力」を身に付けた「自立した学習者・生活者」に成長してほしいこと、そして、②校長の私からのお願いとして、生徒の皆さんの夢の実現に向けた学習時間確保と先生方の負担軽減のための今後の部活動のあり方、さらに、③教育の大切さ、教員は日本の未来を支える人づくり、故郷に貢献する教員をめざしてほしい、という3つの話をしました。

全校生徒一人一人が中等6年間の通過点を歩んでいます。「6年間、中等で学んで良かった」と、卒業時に思えるように、努力を重ね困難を乗り越え、遅く成長して、皆さん一人一人の「大いなる夢」の実現を心から期待しています。

それでは、計画的な学習を行い、事故や怪我がないよう健康で、充実した夏休みを過ごし、夏休み明けにまた元気に会いましょう。